

2023. 5. 30

脱炭素社会へ向けて夢が膨らむ事業である。アルミから生成する「アルミ水素」の独自技術の本格展開につながる大きな一歩といえよう。

環境ベンチャーのアルハイテック（高岡市）が、廃アルミからつくったアルミ水素を燃料にして温泉を温めるシステムを完成させた。二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出削減に貢献する世界初の装置である。

水素は化石燃料に代わる次世代エネルギーとして政府が普及拡大に力を入れている。富山発の水素技術がその一翼を担えるよう、新システムを飛躍の足掛かりとしたい。

### アルミ水素で温泉加温

アルミ水素は、アルミとアールカリ溶液を反応させることで発生させる。製造装置があればどこでも水素をつくれ、輸送や貯蔵コストを抑えられ、製造過程でCO<sub>2</sub>も出さな

## 本格展開へ大きな一歩

た革新的技術で、多分野で活用が期待される。

新システム「温泉パッケージ」は、このコア技術を温浴施設向けに展開した。水素製造装置に市販のボイラーを連結し、アルミ水素のエネルギー

アルミ水素は、アルミとアールカリ溶液を反応させることで発生させる。製造装置があればどこでも水素をつくれ、輸送や貯蔵コストを抑えられ、製造過程でCO<sub>2</sub>も出さな

ら、同時に解決する。今後は、脱炭素社会の実現に向けて政府が普及を急いでいる。アルハイテックが確立した

た革新的技術で、多分野で活用が期待される。組合連合会などと連携し、全国的に展開する。基本戦略を近く改定し、供給量を2040年に現在の6倍の1200万トンを引き上げる目標を打ち出す。富山が評価する富山生まれのコア技術。世界の脱炭素化にどう貢献し、同社がどのよう

に成長していくか。今後の事業展開が楽しみである。

で、お湯を沸かす仕組みだ。温泉施設のボイラーは重油となり、脱炭素や原油の使用が主流。脱炭素や原油に代われば、アルミ水素の

高に伴うコスト増が課題となっており、新システムはこれ

燃焼時にCO<sub>2</sub>を出さない水

どから出るアルミごみの再利

用による、水素の地産地消を

目指すアルハイテックのビジ

ネスモデルはユニークだ。ト

ヨタ自動車など多くの企業が

注目し、共同研究を行っている。今回の温泉パッケージも

国

の支援事業に採択され、開

発費の助成を受けた。

富

民が評価する富山生まれ

の

コア

技術

。世界

の脱炭素化

に

どう

貢献

し

、同

社

が

どの

よう

に

成長

して

いく

か

。今

後

の

事業

展開

が

楽しみ

である。